

5. 川内川の川づくり

5. 1 住民参加と地域との連携による川づくり

より良い川内川の川づくりを実現するためには、日頃から地域住民との連携意識の醸成や情報交換、コミュニケーションによる意思の疎通、住民と行政の役割分担といった、川づくりにあたっての連帯感を向上させていくことが重要であると考えています。

そのため、ホームページやリーフレット等による積極的な川の情報提供を行うとともに、必要に応じ、川づくりについて住民との意見交換会を行います。

特に川内川の河川清掃やイベント等の地域住民の自主的な活動に対しては、多数の地域住民が参加できるよう、必要となる情報を積極的に提供する等の支援を行います。

これらを継続的に実施することにより、地域住民の川内川に関わる機会が増加し日常の維持管理においても、従来の河川管理者主体による河川管理から「人が集い・遊び・学び・憩える川内川は地域みんなの共有財産」との認識に立った住民との連携・協働・協力体系を構築し、地域との協働による河川管理への転換を推進していきます。

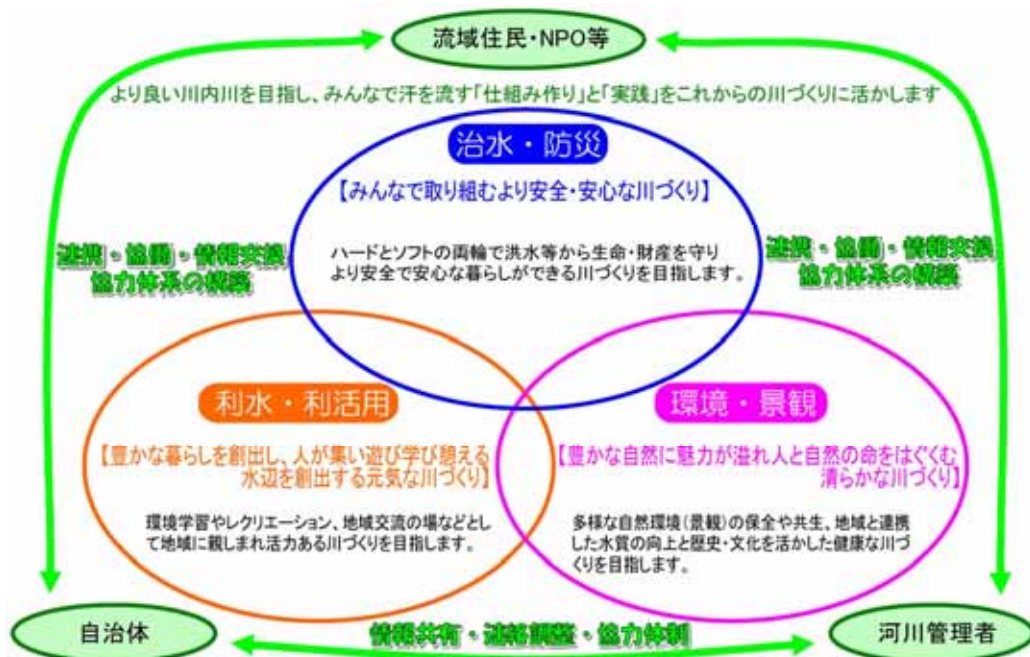


図 5.1.1 地域との協働による川づくりイメージ

また、洪水による被害を最小限に抑えるためには、「自助・共助・公助」が連携し、効果的に機能する事が必要不可欠であり、国・県・市町や関係機関等からなる水害に強い地域づくりを目的とする『水害に強い地域づくり推進協議会』を設立し、災害情報の提供体制の構築・強化、洪水ハザードマップの作成支援や個人・地域の防災力の向上を図っていきます。

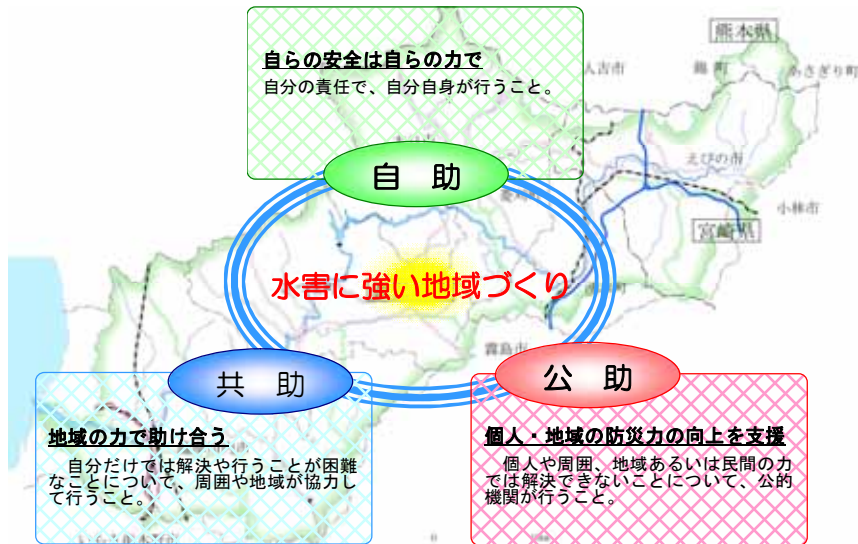


図 5.1.2 水害に強い地域づくりイメージ

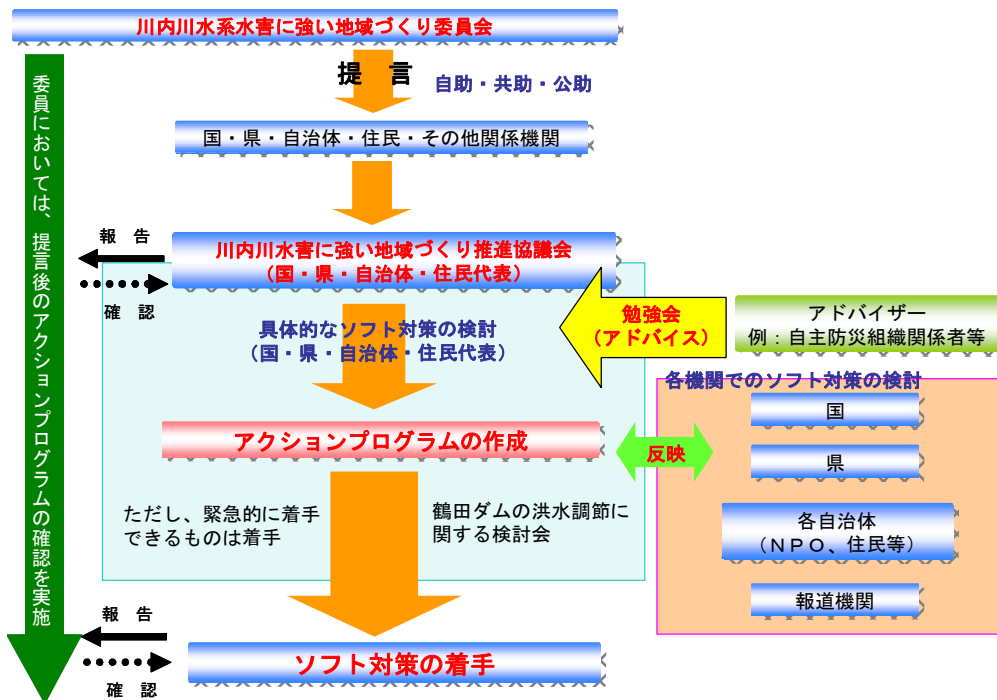


図 5.1.3 水害に強い地域づくり実施手順

5. 2 地域住民の関心を高めるための広報活動

川内川の特性と地域風土・文化を踏まえ、「川内川らしさ」を活かした河川整備を進めるために、ホームページやリーフレット、ラジオ、テレビ、新聞など地元メディアを利用して広く情報提供し、地域住民との合意形成に向けた情報の共有化、懇談会の開催等による意見交換の場づくりを図るなど、関係機関や地域住民等との双方向コミュニケーションを推進していきます。

さらに、川遊びや水生生物調査など自然体験活動の機会を通じて身近な自然である川内川に親しみ、将来を担う子ども達への環境学習を積極的に支援するなど、広範にわたって地域住民が川内川に対する関心を高めるための活動・場づくりを行います。



図 5.2.1 広報活動イメージ